

巻頭言

コロナ禍における日本フラックス成長研究会の活動

Activity of The Flux Growth Society of Japan in Corona Pandemic

田 中 功*



2020年1月に世界中を巻き込んだ新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、1年経っても一向に収束する気配がなく、逆にさざ波のような第1波から次第に津波のような第4波にまでに拡大しています。COVID-19は、社会経済を激変させ、研究教育にも大きく支障をきたしています。それに伴って、仕事や授業の形態も大きく変わり、これまで使ったことないzoomなどのリモート会議ツールを試行錯誤しながら使わざるおえないような状況になってリモートワークやリモート授業が広く普及しました。学会活動においてもコロナ禍で各学会等ではいろいろな試みを実施されています。昨年3月の学会はほとんど開催中止になりましたが、昨年秋季や今年春季の学会ではオンライン開催やハイブリット開催(現地とオンラインの併用)により実施されるようになりました。リモート会議ツールの日々の進展もあり、発表者や参加者にとりましても、次第にオンライン発表にも慣れてきて学会もスムーズに進行するようになったと思います。本研究会でも、昨年度の総会をオンラインで滞りなく開催することができました。

このようなコロナ禍において、本研究会としてどのように活動するかについて私見を述べさせていただきます。本研究会では、日本フラックス成長研究発表会開催と学会誌Journal of Flux Growth (JFG)等の出版を主な事業としています。昨年12月に信州大学にて開催予定でした日本フラックス成長研究発表会は、創立15周年記念事業を兼ねて計画しておりましたが、今年12月に延期いたしました。コロナ感染症が拡大する中で、クラスター発生源になっては本研究会の存続にも関わりますし、15周年記念事業であることとともに本研究会のような小規模な集まりでは、関係者の皆様がお互いに顔を合わせて情報交換することが重要と考えています。一方で、大学や企業の研究者・技術者にとっては、1年の開催延期は大した影響ではないと思いますが、学生にとっては在学期間に学会発表の機会を失うこととなります。これは、本研究会にとっても人材育成の観点から大きな損失と考えます。これらのことから、今年以降の研究発表会については、現地実行委員会にはオンライン開催を視野に入れつつ現地開催を原則とする方針で企画・運営して頂きたいと考えています。また、出版委員会では、創立15周年記念事業として書籍「液相からの結晶成長が分かる本」を企画しています。この書籍は、結晶材料研究分野に関わる大学院学生や企業の若手研究者・技術者を対象に、結晶材料の育成・評価に関する基礎から最新技術までをまとめた教科書・参考書として活用できます。今年12月の第15回フラックス成長研究発表会に間に合うように、現在、査読・編集を進めているところです。

国内では漸くワクチン接種が開始されており、ワクチン接種が国民に広く行き渡ってCOVID-19が収束するには2年ぐらいかかるでしょう。本研究会としては、COVID-19の状況を踏まえつつ、まずは第15回フラックス成長研究発表会を予定通りに信州大学で開催することで準備を進めています。本研究会会員の皆様におきましては、ぜひとも研究発表会にご参加頂き、2年ぶりにFace to Faceでお会いできることを願っています。

*Isao TANAKA, 山梨大学大学院総合研究部附属クリスタル科学研究センター, 本会会長